

北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議（第8回）開催結果概要

1 日 時

平成19年8月1日（水）14:00～16:30

2 場 所

PCB処理情報センター（室蘭市御崎町1丁目9番地）

3 出席者

監視円卓会議委員、伊達市、登別市、環境省、日本環境安全事業株式会社
事務局（北海道、室蘭市）

傍聴者：15名 報道：6社（NHK、HTB、北海道新聞、朝日新聞、毎日新聞、
室蘭民報）

4 内 容

- (1) 第7回監視円卓会議議事録について
- (2) 北海道事業の進捗状況等について
- (3) 処理施設の増設について
- (4) 環境モニタリングについて
- (5) その他

5 議事概要

- (1) 第7回監視円卓会議議事録について
議事録について、監視円卓会議として承認。
- (2) 北海道事業の進捗状況等について
施設の稼働時期について、国内先行事業の知見等を反映した設備の対応工事を実施しているため、平成20年4月頃の予定となったことについて、日本環境安全事業株（JESCO）から説明（資料2-1、2-2）
また、施設設計時における耐震設計について、JESCOから説明（資料2-3）

〈質疑応答〉

Q. 事業の終了時期はどうなるのか。

A. (JESCO)

余裕として見込んでいた年間稼働日数の30日を稼働することにより終了時期を変更しなくとも対応可能となる。

Q. 工事の遅れは先行事業の知見反映との説明だが、基本設計における問題点はどのように評価しているか。

A. (JESCO)

処理方式が類似している（愛知県）豊田事業において、実際に作業を開始して判明した不備（通常人が出入りしない区域での作業環境の悪化等）へ対応が必要との認識である。

Q. 配管の溶接不良の原因はどのようなことか。

A. (JESCO)

配管に弁を追加するため管を切断したところ、内側に溶接の不具合が見つかった。
なお、外観上異常がなく耐圧検査も合格していたが、改めて全数をファイバースコープで確認し、不具合が認められた箇所について対応工事を実施しているところである。

Q. 地震発生の際には、建物と震度計の動きが違って来る。地震源を考慮するだけでなく、地盤も検討すべきと考える。

A. (JESCO)

施設にある感震計3つのうち2つが120ガル（震度5弱程度）を計測すれば設

備の自動停止、40ガル（震度4程度）を計測すれば警報が発報し、点検を実施する。

また、施設の立地場所は鉱さいの埋立地であり、液状化現象はおきにくいとの認識であるが、更に499本の杭を岩盤まで打設している。

（意見）

説明を聞いて安心した。本格操業が遅れてもだめな所は、しっかり直してスタートしていただきたい。これからも気を引き締めて安全性を確認してもらいたい。

（3）処理施設の増設について

安定器などのいわゆるPCB汚染物等の処理に関する検討状況について、JESCOから説明（資料3）

〈質疑応答〉

Q. PCB汚染物等を処理すること及びそのための施設が新たに作られることは知らなかったが。

A. （事務局）

道の処理計画には、道及び15県のすべてのPCB廃棄物を室蘭市の広域処理施設で処理することを記載しており、安定器などのPCB汚染物の処理を含め、これまでの説明会や監視円卓会議においてお話ししてきた。

また、8月8日にはこの事業に関する説明会を開催する予定であるが、周知が遅れたことは申し訳なく思っている。

Q. 増設施設の事業期間はいつまでか。

A. （JESCO）

現施設と同じ、平成27年度末である。

（委員長）

今後も監視円卓会議を含め広く市民に説明していく必要がある。

また、意見を監視円卓会議から提出するなど、事業の推進にあたっては、皆さんの意見を反映しながらすすめること。

情報提供をしないと不安が付きまとうので、処理方式が決まったときなどにわかりやすく説明することが必要。

（4）環境モニタリングについて

平成18年度の測定結果について、事務局から報告（資料4）

また、平成19年度のモニタリング結果（速報値）について、事務局から説明（資料4）

（5）その他

平成19年8月8日に開催予定の「PCB廃棄物処理事業に関する説明会」について、事務局から案内（チラシ）

6 その他

次回監視円卓会議は10月を予定。